

平成30年4月23日

第31回「京都美術文化賞」 受賞者の決定と贈呈式開催について

このたび、公益財団法人 中信美術奨励基金（理事長 白波瀬 誠）では、財団の顕彰事業である第31回「京都美術文化賞」の受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 第31回「京都美術文化賞」受賞者・受賞理由

小名木 陽一（おなぎ よういち・87歳）織

意欲的に創作活動を続けており、繊維素材を用いた独創的な立体造形は国際的に高く評価されている。

重松 あゆみ（しげまつ あゆみ・59歳）陶芸

ユニークな造形と優美な色彩の個性溢れる作品を評価。

鈴鹿 芳康（すずか よしやす・70歳）写真造形

コンセプトがしっかりしており、ピンホールカメラを用いて対象をよく捉えている。

2. 贈呈式日時 平成30年5月30日（水）午後2時

3. 会場 ウェスティン都ホテル京都 葵殿 京都市東山区三条けあげ TEL 075（771）7111

4. 京都美術文化賞について

美術の創作活動を通じて京都府市民の精神文化向上に多大の功績があった方に、「京都美術文化賞」として賞牌と賞金1人金200万円を贈呈し、創作活動を奨励しています。昭和63年5月の第1回に始まり、今回で第31回目の贈呈となりました。

（1）選考委員（敬称略）

梅原 猛（哲学者）
太田 垣 實（美術評論家）
潮江 宏 三（京都市美術館館長）
新宮 晋（彫刻家）
辻 惟 雄（美術史家）
樂 吉 左 衛 門（陶芸家）

(2) 受賞記念展の開催

平成31年1月開催予定

於:京都文化博物館

(3) 過去の受賞者(別紙一覧参照)

・受賞者総数 93名(今回を含む)

絵画 35名(日本画18名 洋画11名 版画6名)

彫刻 12名

工芸 34名(染織12名 陶芸16名 漆芸3名 截金1名 人形1名
ガラス造形1名)

その他 12名(写真3名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名
現代美術3名 花人1名)

・受賞後の活躍

第1回受賞の秋野 不矩氏は平成11年度文化勲章受章

第7回受賞の黒崎 彰氏は平成20年瑞宝中綬章受章

第9回受賞の岩倉 寿氏は平成18年芸術院会員に選出

第9回受賞の木村 光佑氏は平成24年瑞宝中綬章受章

第13回受賞の江里 佐代子氏は平成14年史上最年少で人間国宝に認定

第19回受賞の宮瀬 富之氏は平成21年日本芸術院賞を受賞

第24回受賞の森村 泰昌氏は平成23年紫綬褒章受章

など、受賞後の活躍はめざましいものがある。

(4) 「京都美術文化賞」の意義

伝統ある京都の芸術を発展させ、京都からすばらしい芸術家を誕生させる刺激になっています。美術関係者からは、この賞の足跡について「京都の優れた芸術が集まり、京都の美術界の流れをあらわしていて意義深い」と評価いただいています。

5. 公益財団法人 中信美術奨励基金について

京都中央信用金庫の預金量一兆円達成(昭和61年11月)を記念して、昭和62年4月1日に設立しました。京都府下における美術の創作活動を奨励し、伝統的文化の継承発展並びに京都府市民の精神文化向上に寄与することを目的としています。平成23年4月1日より公益財団法人に移行しました。

以上

☆本件に関するお問い合わせは、京都中央信用金庫 On Your Side 事業部
(TEL075-223-8385 FAX075-223-2563) までお願い申し上げます。

第31回京都美術文化賞受賞者略歴 (敬称略)

小名木 陽一 (おなぎ よういち) 織 87歳

1931年東京生まれ。'54年同志社大学法学部法律学科卒業、'56年京都学芸大学(現京都教育大学)特修美術科絵画専攻卒業。'59年-'64年龍村美術織物勤務、退職後織物をはじめ。'71年丸善画廊(東京、京都)でタピストリー作品を発表、以後わらなどの編組技法によって立体織りを制作。

展覧会：'73年「第6回国際タピストリービエンナーレ展」(ローザンヌ州立美術館/スイス、'77年、'81年)、'75年「第2回国際テキスタイルトリエンナーレ展」(ウージ中央染織博物館/ポーランド、'78年、'81年、'01年)、'95年現代日本の工芸-伝統と前衛(ビクトリア&アルバート美術館/イギリス)、'02年個展(ハフナルボルグ芸術文化研究所/アイスランド)、'08年-'11年「補遺」(スタジオ168、ギャラリーマロニエ/京都)、'17年「補遺II、III」(ギャラリーギャラリー、アートスペース虹/京都)など多数。

受賞：'01年京都府文化賞功労賞。

代表作：「裸の花嫁」('72年)、「赤い手袋」('76年)、「どこでもいいわ」('17年)など。

重松あゆみ (しげまつ あゆみ) 陶芸 59歳

1958年大阪府生まれ。'83年京都市立芸術大学大学院美術研究科陶磁器専攻修了。ユニークな造形と優美な色彩による作品を制作。近年は、縄文土器の造形の仕組みを作品に取り入れてかたちを展開している。京都市立芸術大学教授、国際陶芸アカデミー会員。

展覧会：'93年「現代の陶芸1950-1990」(愛知県美術館)、'98年「つくり手たちの原像」(滋賀県立陶芸の森陶芸館)、'03年「大地の芸術-クレイワーク新世紀」(国立国際美術館/大阪)、'09年「Touch Fire」(スミスカレッジ美術館/アメリカ)、'13年「美術の中のかたち-手で見える造形 近いかたち、遠いかたち 岡晋司・重松あゆみ・中西学」(兵庫県立美術館)、'14年「やきものって何ダ?-陶芸美術館8館の名品に学ぶ」(兵庫陶芸美術館ほか4館巡回)、'17年「重松あゆみ・伊藤慶二展」(壺中居/東京)、1982年初個展以降大阪、神戸、京都、東京、四日市などで個展多数。

受賞：'95年第1回神戸キワニス文化賞、'96年平成8年度神戸市文化奨励賞、'98年第10回倫雅美術奨励賞、'01年平成13年度兵庫県芸術奨励賞、'17年2016年度日本陶磁協会賞など。

代表作：「骨の耳」('91年-'00年)、「Green Orbit」('10年)、「Night Bloomer」('17年)など。

鈴鹿 芳康 (すずか よしやす) 写真造形 70歳

1947年神奈川県生まれ。'66年-'68年多摩美術大学油絵科で学ぶ。'73年より京都市立芸術大学版画研究室講師。'75年フルブライト研究員奨学金を得てサンフランシスコ・アート・インスティテュートに留学、アートの根幹となる写真制作と出会う。ピンホールカメラを使用した写真作品、版画、オブジェなど表現形態は多岐に渡り、チェコ、インドネシア、中国など海外でも精力的に活動している。京都造形芸術大学名誉教授、ピンホール写真芸術学会名誉会長。

展覧会：'05年「鈴鹿芳康・縁起マンダラ展」(教王護国寺/京都)、'06年「近代の日本美術/所蔵作品展」(東京国立近代美術館)、'09年「INTERACTION」(A.A ガラリー/韓国)、'13年「東京都写真美術館コレクション展」(東京都写真美術館)、'15年「解脱したシャツ展」(島田美術館/熊本)、'16年「循環」(野光山信覚寺/福岡)、'17年「室礼-Offerings-III」(THE TERMINAL KYOTO/京都)、「聖地」(galleryMain、Lumen gallery/京都)など多数。

受賞：'68年日本版画協会展新人賞、'89年京都市芸術新人賞、'93年京都現代写真作家展優秀賞、'97年今立現代美術紙展97・日本紙アカデミー賞、'04年日本写真芸術学会特別賞、アルル国際写真祭ディスカバリー賞、'13年京都府文化賞功労賞など。

代表作：「縁起マンダラ」('05年)、「般若心経」('11年)など。

京都美術文化賞 受賞者（敬称略）

※は故人

- 第1回(昭和63年5月) ※秋野不矩(日本画) ※小牧源太郎(洋画) 坪井明日香(陶芸)
 第2回(平成元年5月) ※麻田 浩(洋画) 小清水 漸(彫刻) ※伊砂利彦(染色)
 第3回(平成2年5月) ※中野弘彦(日本画) ※三尾公三(洋画) ※藤平 伸(陶芸)
 第4回(平成3年5月) 竹内浩一(日本画) 井田 彪(彫刻) 樂 吉左衛門(陶芸)
 第5回(平成4年5月) ※吉原英雄(版画) ※野崎一良(彫刻) ※南 祥輝(漆芸)
 第6回(平成5年5月) 中野嘉之(日本画) 内田晴之(彫刻) 面屋庄甫(人形)
 第7回(平成6年5月) 黒崎 彰(版画) ※鈴木 治(陶芸) ※来野月乙(染色)
 第8回(平成7年5月) ※下村良之介(日本画) 番浦有爾(彫刻) 深見陶冶(陶芸)
 第9回(平成8年5月) 岩倉 寿(日本画) 木村光佑(版画) 富樫 実(彫刻)
 第10回(平成9年5月) 下保 昭(日本画) 齋藤真成(洋画) ※西嶋武司(染色)
 第11回(平成10年5月) ※芝田 耕(洋画) ※山田 光(陶芸) 澁谷和子(染色)
 第12回(平成11年5月) ※小嶋悠司(日本画) 林 康夫(陶芸) 服部峻昇(漆芸)
 第13回(平成12年5月) ※堂本元次(日本画) ※井上隆雄(写真) ※江里佐代子(截金)
 第14回(平成13年5月) ※渡辺恂三(洋画) 木代喜司(彫刻) 福本繁樹(染色)
 第15回(平成14年5月) ※岩本和夫(日本画) 小林陸一郎(彫刻) ※栗木達介(陶芸)
 第16回(平成15年5月) 森本 勇(洋画) 竹内三雄(彫刻) 河田孝郎(染色)
 第17回(平成16年6月) 加藤明子(洋画) ※木田安彦(版画) 林 秀行(陶芸)
 第18回(平成17年6月) 吉川 弘(日本画) 柳原睦夫(陶芸) 望月重延(漆芸)
 第19回(平成18年6月) 西野陽一(日本画) 宮瀬富之(彫刻) 上野真知子(ファイバーアート)
 第20回(平成19年6月) ※入江西一郎(日本画) 平岡靖弘(洋画) 井隼慶人(染色)
 第21回(平成20年6月) 木村秀樹(版画) 秋山 陽(陶芸) 松本ヒデオ(陶芸)
 第22回(平成21年6月) 三橋 遵(染色) 八木 明(陶芸) 甲斐扶佐義(写真)
 第23回(平成22年6月) 西久松吉雄(日本画) 野村 仁(マルチメディアアート) 田島征彦(染色)
 第24回(平成23年6月) 山本容子(版画) 小林尚美(ファイバーアート) 森村泰昌(現代美術)
 第25回(平成24年5月) 川村悦子(洋画) 福本潮子(染色) 伊部京子(ファイバーアート)
 第26回(平成25年5月) 麻田脩二(染色) 清水六兵衛(陶芸) 川瀬敏郎(花人)
 第27回(平成26年5月) 畠中光享(日本画) 西野康造(彫刻) 生田丹代子(ガラス造形)
 第28回(平成27年5月) 浅野 均(日本画) 今村 源(彫刻) 久保田繁雄(ファイバーアート)
 第29回(平成28年5月) 森田りえ子(日本画) 松井利夫(陶芸) ヤノベケンジ(現代美術)
 第30回(平成29年5月) 箱崎睦昌(日本画) 山部泰司(洋画) やなぎみわ(現代美術)
 第31回(平成30年5月) 小名木陽一(織) 重松あゆみ(陶芸) 鈴鹿芳康(写真造形)

絵画 35名(日本画18名 洋画11名 版画6名)

彫刻 12名

工芸 34名(染織12名 陶芸16名 漆芸3名 截金1名 人形1名 ガラス造形1名)

その他 12名(写真3名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名
現代美術3名 花人1名)

計 93名